

令和5年度

長生小学校 「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

基礎・基本の確実な定着を図り、主体的・対話的に学び合い、表現できる児童の育成
～学びの質を向上させ、主体的に活動できる児童の育成～

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員	校長:谷中 英昭	教頭:勝瀬 秀成
岩倉 和代		教務主任:浮橋 未夏	
		研修主任:仁木 良江	
		生徒指導主任:柳本 晃祐	

校長

谷中 英昭

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や研究授業等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的・基本的な知識・技能の定着は一定の成果が見られる。 ●初めての文章を的確に読み取ったり、理由や根拠を述べて分かりやすく伝えたりすることに苦手意識がある。 ●読書の質に個人差があり、語彙の少ない児童が見られる。	・基礎・基本の定着を図る。(単元テストで8割回答できる。) ・様々な文章に親しみ、作者や筆者の意図を的確に読み取ることができる。 ・様々な種類の本に触れ、読書の質を高めることができる。	・フラッシュカードや小テスト、チャレンジタイムを活用し、繰り返し学習させる。 ・宿題に文章問題を増やす。 ・「なぜ」「どうして」など理由や根拠を明確にさせるように教師の発問を工夫する。 ・使う言葉を指示して文を書くなど、語彙を増やす機会を設定する。	・学力向上確認プリントを用いて、初読の文を読み取る学習を増やす。		

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○雛型があればそれを活用して表現できる力はある程度身に付いている。 ○タブレット使用に慣れ、学習支援ソフト活用に意欲的に取り組んでいる。 ●与えられた材料から思考判断したり、自分の考えを的確に表現したりすることの苦手な児童が多い。	・雛型を使い、自分の考えを言うことができる。 ・文章や表やグラフを正確に読み、判断するのに必要な材料を的確に選択することができる。 ・タブレットの学習支援ソフトを活用し、自分の考えの表現や自他の比較ができる。	・国語や算数の教科書の雛型を使い、自分の意見を書いたり言ったりさせる。 ・表やグラフの読み取り方を繰り返し学習させる。 ・日記等で長文を書くことに慣れさせる。 ・タブレット教材の使用場面に授業中に設定し、学習状況を教員の端末で把握する。	・子ども鳴潮の視写に加えて、自分の感想を書く学習を行う。		

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自学ノートの内容を工夫して取り組む児童がいる。 ○興味関心のあることに意欲的に取り組む。 ●自ら課題を見つけたり、学習・体験から次の課題を見出して取り組んだりすることは不十分な傾向がある。	・課題解決のために自分の考えを持ち、進んで意見を述べたりすることができる。 ・タブレットを使って記録を取り、分かりやすい資料の作成や発表・提示に意欲的に取り組むことができる。	・ペア学習やグループ学習を活用して、自分の意見を話す活動を多くとる。 ・タブレットの機能を活用し、主体的に学習に取り組める機会を増やす。 ・道徳等の授業でなりたい自分(将来の夢)を明確にし、そのためには今どうすべきかを考える機会を増やす。	・タブレットを使って、自分の調べたことや考えたことを友だちに伝える活動を増やす。		

令和5年度 学力向上ロードマップ



